

推進校別事業実績報告書

〈取組と成果のポイント〉

平成19年度と平成20年度の2年間にわたり、大館市立南中学校と連携を図りながら教員・生徒の相互交流を軸として、本校の伝統であるボランティア活動や地域の高齢者との異年齢間交流を通じて「心豊かでたくましい生徒の育成」を目指した。

その結果、自己を見つめるとともに、他者を思いやろうとする生徒が増加した。

反面、さまざまな体験を通して学んだことを日常生活の場面でどう継続的に生かしていくかということが課題として残った。

1 推進校の概要等

学校名	所在地	電話番号	児童生徒数	備考
あきた おおだて 秋田県立大館高等学校	秋田県大館市柄沢字狐台 52-2	0186-42-0232	337名	事務局校

2 研究課題

人間としての在り方生き方の自覚を深める道德教育（I-⑦）

3 研究主題とその設定理由

「社会の一員として地域に貢献できる心豊かでたくましい生徒の育成」

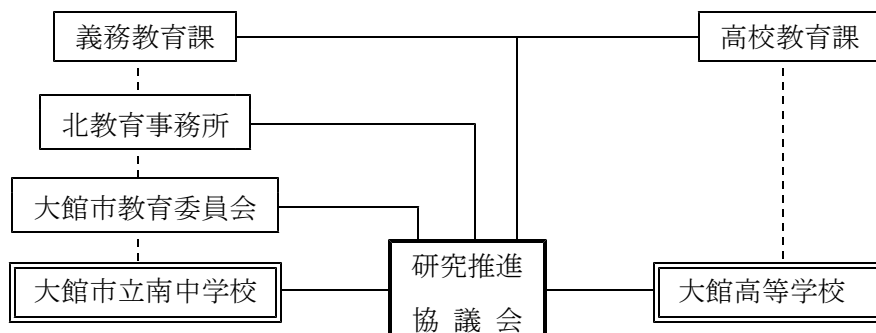
いじめや児童生徒の自殺、少年犯罪の凶悪化、家族による子どもへの虐待など、子どもたちにかわりのある事件が多発している。マスコミ等を通じてその背景について様々論じられているが、これらの問題の発生する要因として、子どもたちを取り巻く社会環境の悪化や子どもたち自身の社会性の未発達、地域や家庭の教育力の低下といったことが考えられる。

学校内においても、インターネットや携帯電話の普及により、生徒一人一人の結び付きは表面的には強いように思われがちだが、実際は実感のないバーチャルな人間関係であることが多い。こうした状況において、価値観の違う他者と交流するいわゆる「横」のつながりは希薄なものとなりがちである。このことが、自分たちと異質な人間を認めず、心の痛みをあまり感じることはないまま排除しようという論理に結びつき、やがて、いじめなどの問題行動につながっていくと考えられるのではないだろうか。人はすべて個性的な存在であり、自分とは異質の個性を認めることによって社会は成り立つ。したがって、社会の一員として有意義な人生を送るためには、自分と価値観の違う人々の存在を認め、共生できる生き方を身に付けていなければならない。

以上のことから、地域や世代の違う人たちとの交流を通じて自分を見つめ直すことにより、人間としての在り方生き方を学ぶことができると考え、本課題を設定した。

4 研究の概要及び特色

(1) 研究の体制



・ 除雪ボランティア

毎年2月に2年生と1年生で学年ごとに1回ずつ実施している。大館市の社会福祉協議会や学校周辺の町内会長・民生委員と学校とで事前に除雪ボランティアの合同会議を開催して、町内会を通じて希望のあった高齢者宅を5～6人ごとに班をつかって訪問し除雪を行う。

なお、今年度は「道徳教育実践研究事業」を連携して行っている大館南中学校の生徒会・ボランティア委員会と高校の生徒会とで『中・高合同ボランティア委員会』を組織し、除雪ボランティアのキャッチフレーズやポスターを中学校と高校で募集し、その作品を校内に掲示して啓発活動を行った。



また、平成21年1月7日には大館南中学校の除雪ボランティアに、高校から大館南中学校の卒業生が協力するという形で参加した。

除雪ボランティアをした生徒の感想

最初は寒いし何で人の家の雪よせをするんだと思ったけれど、やっているうちに何だか調子が出てきて、結構がんばった。屋根から落ちた雪は凍っていて堅くて疲れた。終わった後、その家のおばあさんがありがとうと言ってお菓子をくれた。いつも一人で大変だと言っていた。除雪だけでなく、話し相手になるボランティアもやったらいいと思った。

② 近隣町内高齢者との交流会

・ 平成19年度

<交流会1回目>

内容 手作り和菓子を囲んでのレクリエーション (体操やゲーム、歓談)

<交流会2回目>

内容 調理をしながらの交流

・ 平成20年度

<交流会1回目>

内容 調理をしながらの交流

<交流会2回目>

内容 調理をしながらの交流



交流会を通しての生徒の感想

交流会を通し、様々な世代の方と関わっていくことは大切だと感じた。お互いに知らない情報を持っているので交流することにより、新しい知識を得られると思う。大量に調理をしたので、協力することの大切さを知った。また、社会に出ると同世代以外の人との関わりが増えるので礼儀の大切さなどについても学んだ。

③ 近隣町内高齢者への弁当宅配

・ 平成19年度弁当宅配事業

内容 弁当製作および宅配

対象 14世帯17名

作製・宅配 2年生活科学科生活実践コース (調理選択)、福祉コース

・ 平成20年度弁当宅配事業

内容 弁当製作および宅配

対象 17世帯17名

作製・宅配 2年生活科学科生活実践コース (調理選択)、福祉コース



弁当宅配を通しての生徒の感想

弁当宅配事業では、みんなと協力し合い時間内に終わらせることができ良かった。とても喜んでもらえて達成感を味わえた。一人暮らしはさみしいと思うので、これからも交流会や弁当宅配を行い、お互いに支えあったり、学びあうべきだと思った。

弁当を宅配した高齢者の感想

食品数も多く、調理方法（焼く、煮る、炒めるなど）や、味付けにも気をつけて作られたことでしょうか。おいしくいただきました。また、お弁当の包装紙、お箸入れにまで、心遣いありがとうございました。アンケート記入時に献立名のあるお弁当の包装紙は大変ありがたかったです。

和・洋・中と色々なメニューで楽しめて栄養学的にもよく、お弁当を開いてワァーと思う配列にびっくり。食することがもったいないくらいでした。お弁当の上包みと箸入れなど心のこもった優しさを感じて幸せでした。ごちそうさまでした。

④ 「先輩から学ぶ」

本校の卒業生で、世界的に活躍しているマリimba奏者の布谷史人さんを招き、マリimba演奏とトークショーを行った。身近な先輩の生き方から自分自身の「在り方生き方」を考えてもらうために実施した。「道德教育実践研究事業」を連携して実施している大館南中学校の生徒・教職員、地域の方にも案内を差し上げ、参加していただいた。



「先輩から学ぶ」を通しての生徒の感想

努力すれば夢はかなう。このことを今日は布谷さんから学びました。あこがれのアメリカに留学したときも、楽しいことだけでなく、辛いこともあったと言っていました。それは、今の私と同じではないかと思いました。将来の夢を将来のことと考えないで、そのために今この瞬間でも努力してがんばらなければならないと思いました。また、自分が好きなことに集中できるように支えてくれた人への感謝も忘れないところがすごいと思いました。

⑤ 中・高合同「体験・学習発表会」

学びの共有化と異年齢集団との交流を目的に、両校をそれぞれ会場として中・高合同「体験・学習発表会」を開催した。大館南中学校では本校の家庭クラブの研究発表と、生徒会長による除雪ボランティアの発表を行った。本校での発表会の内容は、

- ・ 大館高校家庭クラブ研究発表
- ・ 進路希望別研究発表（1年生）
- ・ インターンシップ体験発表（2年生）
- ・ 大館南中学校生徒の発表（弁論と英語の暗唱）
- ・ 生活科学科ファッションショー



体験・学習発表会の生徒の感想

今日の発表を聞いて、みんな色々考えているんだなと思い、何だかアセリを感じました。インターンシップの発表では「学校で学習したことを生かそうと思っても、実際にその場では動けなかった」という言葉が印象に残りました。南中学校の生徒の発表は、これが中学生かと思うほど立派でした。「心の闇」という発表でしたが、現代社会に潜む問題点をとらえていて、色々と考えさせられました。英語のスピーチも感情を上手に表現していてすばらしかったです。私も負けていられないなと思いました。ファッションショーはとにかく感動でし

た。さすがは3年生、すごいなと思いました。今日の発表を聞いて、自分の夢や将来について深く考えてみようと思いました。

5 研究の評価

(1) 研究の成果

- ① ボランティア活動や高齢者との交流を通じて相手の気持ちを理解しようとしたり、自分も何かの役に立ちたいという心が醸成されてきた。
- ② 中学生や友人、世界で活躍する先輩の生き方にふれて、自分を見つめるとともに努力の大切さや自分もやればできるといった、自分の将来に対して前向きになろうという姿勢がみられた。
- ③ 中学生との合同ボランティア委員会やボランティア活動の場面で、年長者としてリーダーシップを発揮しようとする姿勢がみられた。

(2) 今後の課題と予定している取組

- ① 体験から得た思いをいかにして行動につなげていくかという「道徳的実践力」の育成を図る。
- ② 中学校までの「道徳」の授業をふまえ、発達段階に応じた高校での「道徳」の授業を工夫して創造していきたい。

6 参照できるホームページアドレス

<http://www.odate-h.akita-c.ed.jp/>

